

2001年9月

会 員 各 位

社団法人 日本化学会  
会 長 岩村 秀

### 「日本化学会誌」の『休刊』について（お知らせ）

「日本化学会誌」は、昭和47年（1972年）に「日本化学雑誌」と「工業化学雑誌」を併合し、“基礎化学と応用化学の融合”を旗印に発刊してまいりましたが、このたび2002年3月号をもって『休刊』とすることを理事会において決定いたしましたので、ご通知申し上げます。

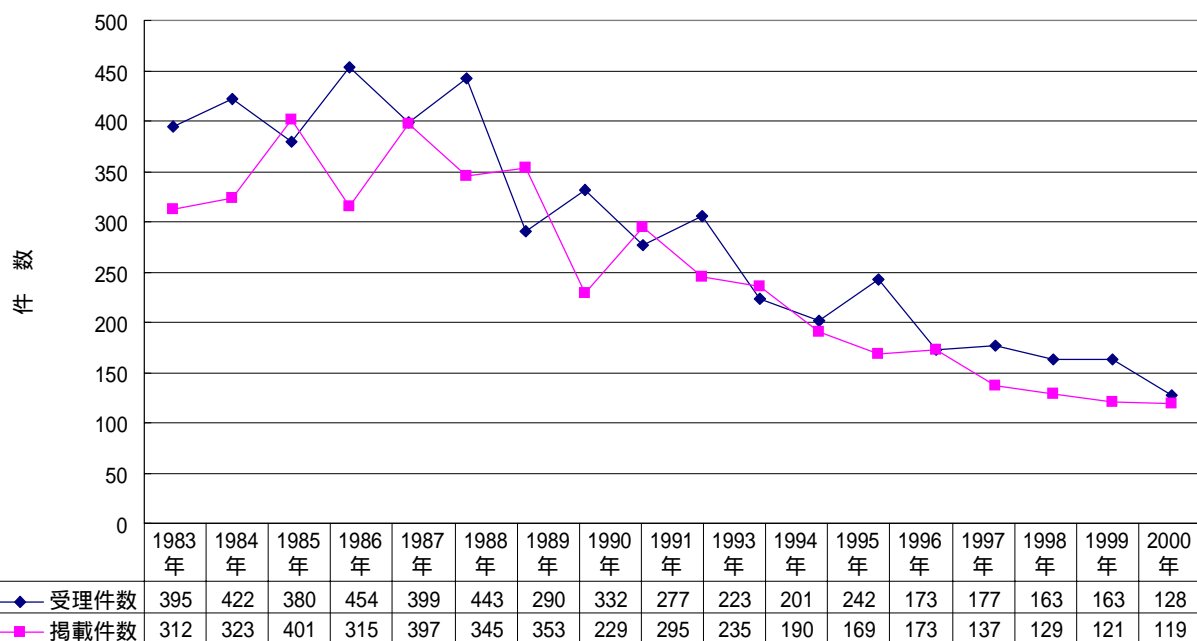
「日本化学会誌」への投稿件数・掲載件数は、グラフが示すように10数年来、長期低落傾向にありました。この間、歴代編集委員長・編集委員は危機感を抱いて、企業研究者への技術論文の投稿呼びかけならびに依頼論文の企画等、投稿件数の増加と内容の充実に向けて懸命な努力を傾注してまいりました。

一方、理事会・将来構想委員会等でも“日化誌のあり方”について度々論議を重ね、“日本語による論文誌”を継続的に刊行することの重要性の観点から期待を込めて見守ってまいりました。しかし、昨年半ばから月別の投稿数はしばしば一けた台に落ち込むようになり、ついに本年4月は3件という事態になりました。このゆゆしき状態を受けまして本会は、「日本化学会誌」の将来について学術情報部門と日化誌編集委員会関係者の会合、運営会議、理事会において抜本的対策を討議してまいりましたが、その結果、2002年3月号をもって『休刊』せざるをえないとの結論に至りました。ヨーロッパ諸国が連帯して英文誌「ヨーロッパジャーナル」を創出していることに具象されているように、いまや化学・化学技術論文の英文投稿への流れは大きく、和文学術論文を基盤としてきた日本化学会誌の永い年月にわたった役割は終焉したと判断いたしました。

「日本化学会誌」の源泉をたどりますと、明治13年（1880年）に我が国最初の化学報文誌として刊行された「東京化学会誌」（その後、大正10年（1921年）「日本化学会誌」に、さらに昭和23年「日本化学雑誌」に改称された）、ならびに明治31年に刊行された「工業化学雑誌」とが合本されて、昭和47年（1972年）上述のように現在の「日本化学会誌」になりました。このように本誌はさかのぼること実に120余年の永い歴史を誇り、この間、我が国における化学の黎明期から今日に至るまで化学の発展に重要な貢献を果して参りました。この歴史と伝統ある「日本化学会誌」を休刊することは、誠に断腸の思いです。本会は会誌「化学と工業」、「BCSJ」、「Chemistry Letters」等の質的充実に一層努力し、それと同時に和文学術誌の重要性について会員からのご提言も受けながら、今後、新たな議論を進めてまいります。

会員諸氏におかれましてはこのような事情をご賢察のうえご理解いただきますようお願いいたします。永年にわたり「日本化学会誌」のためにご尽力いただきました歴代の編集委員長・編集委員・担当理事をはじめとする関係者の方々に深甚なる謝意を表わすとともに、ご投稿・ご愛読いただきました会員の方々に厚く御礼を申し上げます。

日化誌受理件数・掲載件数年次推移



会 員 各 位

日本化学会誌編集委員会  
委員長 山岸 敬道

「日本化学会誌」への『投稿原稿受付最終日』について（お知らせ）

上記のように「日本化学会誌」は2002年3月号をもって『休刊』とすることが理事会で決定されました。これに伴い、本誌への論文原稿投稿は、本年10月15日到着をもって受付を締め切ることにいたします。したがいまして、本年10月16日以降到着の投稿論文につきましては残念ながらご返却することになりますので、会員諸氏におかれましてはこの点充分ご留意いただきますようお願いいたします。